



樹海の彼方に太平洋が光る。 遮るもののないパノラマを 17坪のテラスで楽しむ

屋嘉比康也&徳子
Yasunari & Noriko Yakabi

名護市 ● 002
沖縄スタイル

写真＝福田真己
Photos : Maki Fukuda
文＝奈須川さと子
Text : Satoko Nasukawa

左：56.86㎡の広いテラスからは一年中緑のヤンバルの樹海が見渡せる 下：キッチンの窓からも緑が眺められる。窓の下には見せる収納を意識した大容量の食器棚



自然の中にせり出したテラスは、 山の上の一軒家ならではの贅沢

鬱蒼とした森が続く沖縄本島北部、山原の山の上にある屋嘉比康也さん、徳子さん夫妻の家は、ロケーションを最大限に生かした広いテラスが特徴的だ。もともと父との共有財産として保有していた6600坪の土地は、友人とパーベキューをしたり太平洋から昇る初日の出を見たりというレクリエーションの場として使っていたが、7年前に友人を通して設計士の福村俊治氏と出会ったことがきっかけとなり、ここに住まいを建てる計画が進んだという。

設計に当たって康也さんが要望したのは眺望を生かすこと。そして友人や親戚が集まりやすい家にする。福村氏が代表を務める設計事務所『team DREAM』の出した答えは、

テラスを含めた総床面積の4分の3をパブリックスペースにするという大胆な間取りだった。さらに自宅用とは別に、玄関わきには、来客用のシャワー＆トイレを設けた。

普段リビングと一体のスペースになっている和室は、戸袋に収納された間仕切りを閉めると、来客用の寝室になる。その和室はリビングより1段高くなっており、その段差を利用して腰かけることのできるスペースに。

オープンなキッチンとリビングを仕切るカウンターテーブルは、そこに座った人とソファや和室に座った人の視線に高低差がないよう、高さを抑えている。その分キッチン側の作業スペースの床を下げることで低いカウンターでも快適に家事が

できるように工夫されている。

そしてこの家の中心ともいえるテラスは、土地の傾斜を利用し、空中にせり出した形になっていてまさに絶景ポイント。リビングの3倍もの広さを持つテラスには壁の中にスピーカーが埋め込まれ、パーティのBGMはもちろん、屋外でカラオケまで楽

しめるようになっていく。山の上の一軒家ならではの贅沢だ。

康也さんが現在、趣味で製作中の一枚板のテーブルが今年の夏はテラスで活躍することだろう。亜熱帯の沖縄だからこそ、年間を通じて活躍するテラスと、その向こうに広がる自然を生活の中心に据えた素敵な家だ。

テラスの外周は25cm低くなっていて、腰かけることができると同時に、手すりが低くなるためリビングからの眺めが妨げられない。新築祝いのシーサーがコーナーを守る



テラス横の寝室には、高低差を利用して床下収納が設けられている。康也さんが泡盛の古酒を寝かせるために使う予定だ



3



2

1: 玄関を入るとリビングダイニング。上部に鏡を使って奥行きを演出している。壁の向こうは寝室と夫妻専用のバスルームだ 2: リビングに隣接する和室は、回りを板の間にした分一枚の畳を小さくした。畳に座った時に圧迫感がないように、障子やサッシも背の低いものを特注した 3: 朝は樹海を眺めながら、夜は星を眺めながらのバスタイムが楽しめる